

会議等名	平成 26 年 第 1 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 26 年 2 月 21 日 (金) 10 : 00 ~ 11 : 30
場 所	海老名市役所 3 階 政策審議室
出席者	出席者：大治委員長、城向副委員長、市川副委員長、青木委員、阿部委員、霜田委員、諏訪委員、高橋委員、山田委員、菅生委員、長谷川委員 (以上 11 名出席) 欠席者：大島委員 海老名市：清水財務部長、秦財務部次長、橋本参事兼企画財政課長、告原主幹兼政策経営係長、西尾
<p>1 開 会 橋本 財務部参事兼企画財政課長</p> <p>2 委嘱状の交付</p> <p>3 市長あいさつ 委員 12 名のうち、10 名が新任として委員になっていただいた。 外部評価委員会は、行政評価の客観性の向上や行政評価全体の充実を図ることを目的として、平成 17 年度に条例により設置し、今回で 9 年目を迎える。この間、試行錯誤をしながらも、確実に評価水準はあがってきていると感じており、毎年いただくご意見に納得させられる部分が多い。 平成 20 年度から 29 年度までの第四次総合計画も終盤に差し掛かり、まとめの時期に来ている。市としては、外部評価委員会における市民目線による積極的な助言と忌憚のない意見等を賜りながら、各事務事業の課題解決は基より、第四次総合計画の総括の参考とさせていただきながら、今後に繋げていきたい。 これからの 2 年間、第四次総合計画に掲げる「快適に暮らす 魅力あふれるまち海老名」の実現に向けて、皆様のご尽力を賜りたい。</p> <p><市長 所用のため退席></p> <p>4 委員自己紹介 委員自己紹介及び事務局紹介</p> <p>5 委員長の選出及び委員長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員より事務局案の提示意見あり。 ・事務局より、委員長として長年ご尽力いただいている大治氏が適任とする案を提示。 ・参加委員全員一致で大治氏に委員長決定。 	

○大治浩之輔委員長より

外部評価委員になって5期目になる。外部評価委員会の役割は、市が市民からいただいている税金を使って事業を実施し、実施したものがいただいた税金に見合う仕事になっているかどうかを評価することにあると思っている。評価結果に強制力はないが、市が行っている事業の実態を理解し、市が自己評価している内容に足りない内容を補うことも外部評価委員に与えられた仕事である。自己紹介でも皆様が様々な場で活躍されていることがわかったが、異なったキャリアが意見を出し合うことで意味を成すと考えているため、遠慮なく意見をいただき、進めていきたい。2年間よろしくお願ひします。

6 副委員長の任命

大治委員長より任命

- ・城向 秀明 副委員長
- ・市川 雅史 副委員長

7 議 題

(1) 海老名市の行政評価について

資料1・2、参考資料1～4に基づき、事務局から説明

<主な質疑応答>

【委員】 3年間で全施策及び施策に位置付けられた全実施計画事業を評価したいとの説明があったが、参考資料1で示された“厚木基地航空機騒音対策”の事業のように、事業の成果が表しにくいものについても評価するのか。

【事務局】 行政の事業の場合、法に基づき粛々と業務を遂行するような事業や毎年同じ内容で事業を続けるような業務もあるが、施策に位置付けられている実施計画事業は全て評価したいと考えている。外部評価の対象となる事業及び施策については全て財務部長及び各部の次長で構成する行財政改革推進委員会で実施する内部評価を行うため、内部評価結果も踏まえて実施していただければと思う。

【委員】 新しくなった“実施計画・行政評価調書”及び今回試行として新たに実施する施策評価のための“施策評価調書”について事務局から説明があったが、今回10名が新たに委員になっており、今回の説明だけでは理解ができないと思う。参考例を挙げて、次回の外部評価委員会で実際に評価してみた方がいいのではないか。

【事務局】 次回の外部評価委員会では、3グループのグループ分けを考えている。1グループ4名に市職員を1名ずつ付ける予定でいる。少人数の方がグループ毎で様々な話ができると思うため、グループ毎で作業方法も確認しな

から議論していただければと思う。

【委員】 具体的な事業の内容は、担当課へヒアリングを行い、直接確かめて理解を深めることも行っていく。

【事務局】 市職員を交えてグループ毎に疑問点を話し合っていたらと思う。参考例となるような事業については、次回の委員会で使用できるよう準備しておく。

【事務局】 今年度は、政策毎に外部評価対象事業を抽出し、施策評価ができそうか議論したが、今年度施策評価を行うことは難しいという結論になり、実施できなかった。

来年度～28年度の3年間で全施策を評価し、平成30年度以降の次期総合計画策定に向けた1つの検証材料とさせていただけたらと思い、提案させていただいている。

施策評価は事業評価より難しいと考えており、1つの課題は指標である。現在は事業毎に指標を設定しており、政策・施策の単位で指標を設定していない。施策に位置付けられている各事業が1つの部や課となっていない施策もあるため、設定するのが難しい。施策単位で指標が設定されていない中、どこまで評価ができるかが課題である。

ただ、施策評価についても、外部評価委員会は「市が実施する行政評価について、評価の客観性及び信頼性を確保する」という趣旨で設置されていることから、行財政改革推進委員会における内部評価結果を踏まえて外部評価を行っていただくことを考えている。具体的には、事前に行う事業評価を見返しながら、評価していくことになるかと思う。

施策評価については、まだ調書の修正は可能であるため、意見があれば、次回の委員会で言っていただければと思うが、“実施計画・行政評価調書”については、3月に担当部課評価を始めるため、この書式で進めさせていただきたい。

【委員】 施策評価は、今後続けていく方針か。

【事務局】 まだオーソライズされていないが、続けていく方向で考えている。

【委員】 現在委員会において課題となっていることは何か。
委員会では、事業に対する評価のみ行うのか。委員会自体の課題についても考えるのか。

【委員】 外部評価は、市の事業に対し、外からの目線で評価することであるが、評価結果がそのまま今後の市の施策に反映されるわけではない。しかしながら、評価結果を受け、少なからず市で検討はされている。

【委員】 外部評価委員会は、様々な企業、分野で活躍されていた方々が集まっているため、様々な考えを出すことができる。また、内部評価された事業について、市民目線で意見を付け加え、行政が市民の意見を知ることにより、見直しを重ねることができる。

基本的には内部評価を改めて外部の目線で評価することである。議員のような立場になりがちだが、役割は、市民の目線で評価をし直すことである。議員とは違い、責任も強制力もないが、自由な意見を伝え、意見として受け取ってもらう機会にもなる。

【委員】 “平成 25 年度行政評価結果” の P. 13 以降に記載している外部評価委員会からの総括意見を読んでいただければわかると思うが、事業に対する評価のみでなく、自由な意見を出している。

【委員】 資料 2 でスケジュール案が示されたが、作業の日数が足りないのではないかな。

【事務局】 平成 25 年度の事業に対する評価については、委員会を 5 回程度開催するほか、グループ別評価作業を 4 回前後行う。実際の評価作業は 4 回前後のグループ別評価作業を進めていただくことになる。グループ毎で日程調整を早めにし、なるべく全員が出席できる日を調整していただき、市の担当部署がその日程にできる限り合わせる形で設定させていただければと考えている。

(2) その他

平成 26 年 第 2 回海老名市外部評価委員会の日程について

- ・日 時 平成 26 年 4 月 2 日 (水) 午前 10 時より
- ・場 所 (後日通知)

8 閉 会

橋本 財務部参事兼企画財政課長

以 上